

# 地震災害 主な地震災害

地震の発生により火災、津波、がけ崩れ、地すべり、液状化現象、建物の倒壊等が起こります。地震の後に起こるこのような災害に対しても自分の身を守ることが大切です。

## 火災

大規模な震災では、地震の後に大小の火災が発生することがあります。

地震直後は消防署への緊急電話が殺到し、また家屋の倒壊や道路の損壊によって、火災現場へ消防車や救急車がたどり着くまでに時間がかかります。料理を作る時間帯やストーブを使用する冬季に地震が起きた場合、火の元の始末をすることが大切です。



## 津波

大地震により津波が発生した場合、甚大な被害が発生することがあります。

内陸部では直接津波の影響はありませんが、旅行等で沿岸部に行った際に地震が発生し津波が襲来するかもしれません。

その際は、テレビ、ラジオで正確な情報を得ること、海岸からより遠く、より高い場所へ避難することが大切です。



## がけ崩れ・地すべり

地震により急な斜面や造成地などで、がけ崩れや地すべりが発生することがあります。地すべりにより橋梁が落ちたり、道路との間に段差ができたりすることもあります。また、地震で地盤が緩んでいるところに大雨が降ると、がけ崩れや地すべりが発生しやすくなります。



## 液状化現象

埋立地などで地震による振動で地下水位が高い場所の地面が泥湿地のようになることです。

液状化現象により地面が波打ち、下水管やマンホールの蓋が浮き上がったりします。



## 建物倒壊

地震の強い揺れによりビルや家屋、橋梁、電柱などの建造物が倒壊し、ブロック塀が倒れたり、ガラスなども割れて飛散します。熊本地震では最初の地震では倒壊しなかった建物も2度目の地震や度重なる余震により傾いたり、倒壊したりしました。



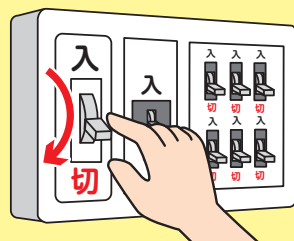
防災  
チェック  
ポイント

### 通電火災を防ぐために

大地震が発生すると、電力線の断絶などが起こり、電気の供給停止が想定されます。その後、電気が復旧する際に、倒れた電気器具や切れた電気配線に通電し発生する火災を「通電火災」と言います。

通電火災を防ぐためにも、避難をする際は電気のブレーカーを落とすようにしましょう。

感震ブレーカーは、地震の揺れを感知して自動で電気の供給を遮断し、地震による電気火災(通電火災)を防ぐための装置です。電気火災対策には効果的です。



### ●震度階級

震度は、その場所での地震の揺れを階級であらわしたものです。10階級の区分に分けられます。

### ●マグニチュードと震度の違い

「マグニチュード」は、地震そのものの大きさ(規模)を表す単位です。一方「震度」は、地上のある地点での揺れの強さを10段階で表す尺度です。

「マグニチュード」と「震度」の関係は、例えば、「マグニチュード」の小さい地震でも震源からの距離が近いと地面は大きく揺れ、「震度」は大きくなります。また、「マグニチュード」の大きい地震でも震源からの距離が遠いと地面はあまり揺れなく、「震度」は小さくなります。

震度	揺れなどの状況
0	●人は揺れを感じない。
1 ★	●屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。
2 ★★	●屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。 ●電灯などのつり下げものが、わずかに揺れる。
3 ★★★	●屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。 ●棚にある食器類が音を立てることがある。
4 ★★★★	●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などのつり下げものは大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。 ●座りの悪い置物が、倒れることがある。
5弱 ★★★★★☆	●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ●棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
5強 ★★★★★★	●物につかまらなると歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。 ●固定していない家具が倒れることがある。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。
6弱 ★★★★★★☆	●立っていることが困難になる。 ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
6強 ★★★★★★★	●はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
7 ★★★★★★★★	●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。 ●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

急に地震が発生するとあわてるものです。しかし、あわてずに行動することが自分の身を守ることになります。地震発生時からの行動はどうあるべきかを日ごろより考えておくことが大切です。

### 地震発生

地震発生後  
1~2分

地震発生後  
3分

地震発生後  
5分

地震発生後  
5~10分

地震発生後  
10分~数時間

地震発生後  
~3日ぐらい

避難生活を送る  
上での注意点

### 命を守る

- あわてて外に飛び出さないようにしましょう
- ドアや窓を開けて逃げ道を確保しましょう
- 家具の転倒や物の落下が有る場合は、身を守るために机などの下に身を隠しましょう



### 家族を守る

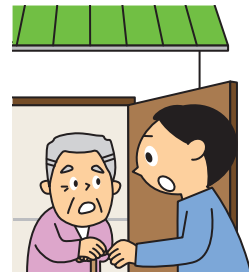
- 火元の確認や出火の場合は消火しましょう
- 家族の安全確認をしましょう
- 外に逃げる時には安全のため必ず靴をはきましょう
- 非常用持ち出し袋の用意がある場合は持ち出しましょう



- コンロの火を消し、ガスの元栓を締めましょう
- テレビやラジオで情報確認をしましょう
- 余震に注意しましょう

### 地域を守る

- 隣近所の安否確認や周囲の様子を確認しましょう
- 火災が発生している場合は周囲・消防に知らせるとともに消火活動をしましょう
- 家屋やブロック塀に倒壊の危険がある場合は近寄らないようにしましょう



- こどもの迎えに行きましょう  
日ごろより学校での災害時の防災ルールを把握しておきましょう
- 家を離れる場合は避難場所などの貼紙をしておきましょう
- 通電火災を防ぐため電気のブレーカーを落としましょう



### 助け合いの心で...

- 隣近所で協力し消火や救助活動をおこないましょう
- 生活必需品は備蓄でまかないましょう  
日ごろから生活必需品を備蓄しておくことが大切です
- 倒壊の危険性のある家には立ち入らないようにしましょう
- 広報に注意し災害情報、被害情報を収集しましょう



- 自主防災組織を中心に行動しましょう
- 集団生活のルールを守りましょう
- 助け合いの心で生活しましょう



### 緊急地震速報を活用して身を守ろう！

緊急地震速報は気象庁が地震発生直後に、各地での強い揺れの到達時刻や震度を予想し、可能な限り素早く知らせる情報のことです。

緊急地震速報を発表してから強い揺れが到達するまでの時間は、数秒から長くても数十秒くらいです。

自分を守るために情報は最大限活用しましょう。



### 屋内での地震対応

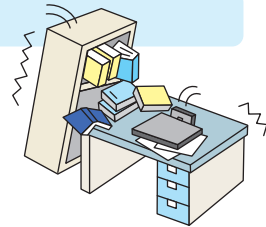
#### ● 自宅での対応

- 大きな揺れを感じたら、テーブルの下などに身を隠し自分の身を守りましょう。
- 揺れが収まったら、戸を開けて出入り口を確保しますが、あわてて外に飛び出さないようにしましょう。



#### ● 職場での対応

- 窓ガラスの飛散やOA機器・キャビネットなどの転倒に注意しましょう。
- 外へ避難するときは落下物に注意し、エレベーターは使用しないようにしましょう。



#### ● スーパーやデパートでの対応

- 陳列商品の比較的少ない場所で、柱付近に身を寄せましょう。
- 陳列棚のガラス商品や瀬戸物、その他の商品の落下に注意しましょう。
- あわてて出口に殺到しないで、係員の指示に従いましょう。
- エレベーターやエスカレータでの避難は避けましょう。



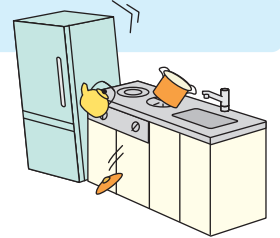
#### ● トイレ、風呂での対応

- 風呂ではタイルや鏡、トイレでは水洗タンクなどが割れたり落ちたりすることがあるので注意しましょう。
- 揺れが収まってから避難しましょう。



#### ● 台所での対応

- 一番に火の元の確認をしますが、調理器具の落下ややけどなどに注意しましょう。
- 食器棚や冷蔵庫など大型家具の転倒に注意しましょう。



#### ● 学校での対応

- 廊下・運動場・体育館では中央部に集まってしゃがみましょう。
- 実験室などでは薬品や火災に注意しましょう。
- 通学路が危険なこともあるので勝手に行動しないで、先生の指示に従いましょう。



### 屋外での地震対応

#### ● 住宅地での対応

- ブロック塀や石塀は強い揺れで倒れたり壊れたりする危険があるので近づかないようにしましょう。
- 電柱や自動販売機も倒れる危険性があるので離れましょう。
- 2階建て以上の建物からはエアコンの室外機や屋根瓦などの落下の危険性があります。



#### ● 海岸での対応

- 海岸では津波に注意することが重要です。近くの高台か3階建て以上の建物の3階以上の階に避難しましょう。津波は何回も繰り返す可能性があるため、波が引いても状況を良く見極めましょう。



#### ● 川べりでの対応

- 津波は上流へ向かってくるので、流れに対して直角方向に避難しましょう。



#### ● 山や丘陵地での対応

- 山間部では落石や地すべりに注意し、危険な場所に近づかないようにしましょう。



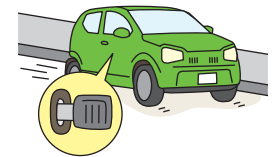
#### ● 繁華街での対応

- ビルなどからはガラスやタイル、看板が落下する危険があるので離れましょう。近くにいた場合は鞆などで頭を保護し、できるだけ早く避難しましょう。



#### ● 自動車運転中の対応

- 急ブレーキをかけることは危険なので、前後に注意しながらゆっくりと路肩に寄って停車し、エンジンを切って揺れが収まるまで車外には出ないようにしましょう。車から離れて避難する際には、キーを付けたままにしましょう。



#### ● 電車やバスでの対応

- 電車は強い揺れを感知すると緊急停止します。バスも危険回避のため急ブレーキをかけることがあります。座席に座っている場合は、低い姿勢をとって頭部を保護し、立っている場合はつり革や手すりをしっかり持って転倒に注意しましょう。



防災  
チェック  
ポイント

車で避難しない  
ように!

地震発生時は、消防車などの緊急車両の通行を確保することが大切です。みんなが車を使って避難すると、緊急車両や避難する人たちの邪魔になり、混乱を大きくしてしまいます。山間部の土砂災害危険地域、歩行困難な高齢者や病人のいる家族など、どうしても車を使わなければならない場合以外は、徒歩で避難しましょう。



# 地震災害

## 大きな揺れに備えて「安全対策」

事前に準備できているか、チェック☑しましょう。

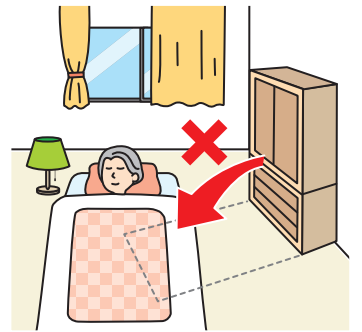
### 家の中の安全対策

#### □ 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。  
無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。

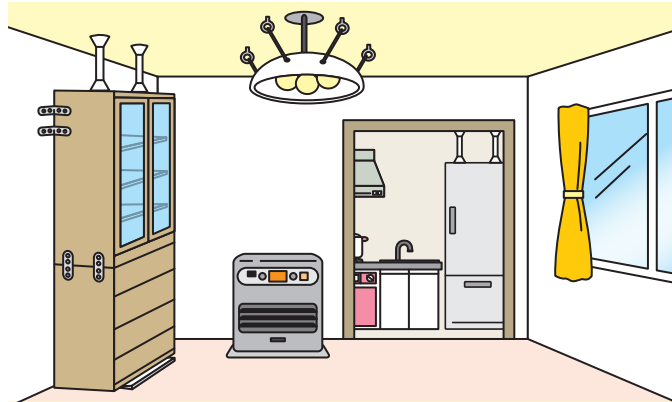
#### □ 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもや、お年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。



#### □ 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。  
また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全にする。



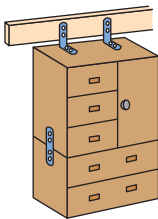
#### □ 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいるものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

### 家具の転倒、落下を防ぐポイント

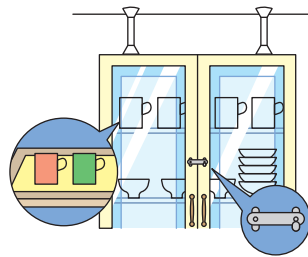
#### □ タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



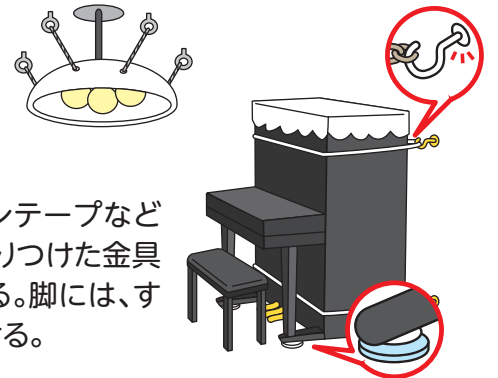
#### □ 食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



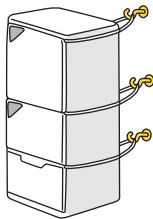
#### □ 照明

チェーンと金具を使って数か所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



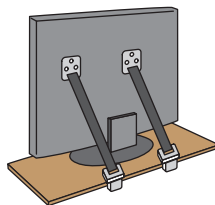
#### □ 冷蔵庫

扉と扉の間に針金を巻いて、金具で壁に固定する。



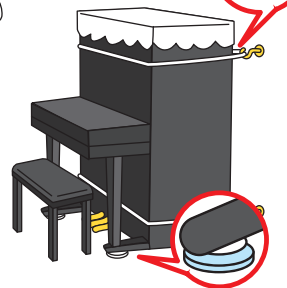
#### □ テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。



#### □ ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



### 家の周囲の安全対策

#### □ 屋根

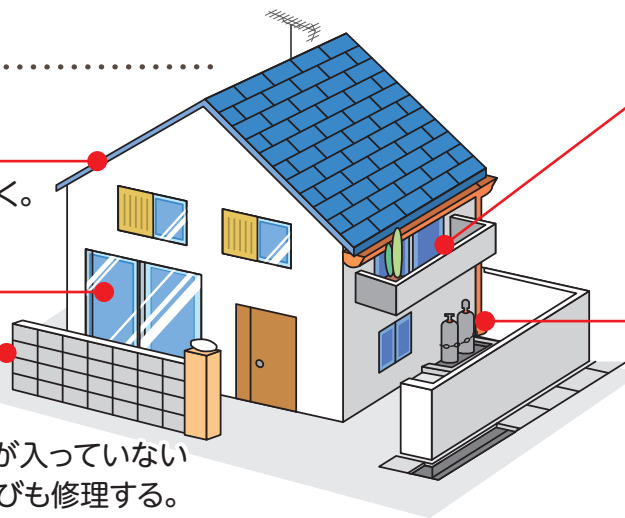
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

#### □ 窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。

#### □ ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。



#### □ ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

#### □ プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

防災  
チェック  
ポイント

### 地震に強い家をつくろう

【問合せ先】市役所建設課 都市計画建築係 0974-22-1140

市では、住宅の耐震化や危険ブロック塀等の除却にかかる費用の一部を補助しています。

- ①旧耐震基準(昭和56年5月31日以前)で建築された2階以下の木造住宅(木造のアパート含む)の耐震診断費用及び耐震改修費用の一部
- ②危険なブロック塀等の除却にかかる費用の一部



### 南海トラフ地震臨時情報とは

南海トラフ地震臨時情報は、南海トラフ地震の想定震源域内で異常な現象が観測され、地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価された場合などに気象庁から発表される情報です。南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)などが発表された場合には、1週間程度は、日頃からの地震への備えの再確認に加え、特別な備え(すぐに逃げられる態勢の維持や非常持ち出し品の常時携帯など)を行い、必要に応じて自主的に避難を行いましょ。南海トラフ地震臨時情報(調査終了)が発表されたあとも、大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意し、地震の発生に注意しながら通常の生活を行いましょ。

### 南海トラフ地震が発生したら…

#### 地震発生後の防災対応の流れ

